

平成 29 年度第 2 回伊勢市まち・ひと・しごと創生会議 議事要録

◆日時 平成 29 年 11 月 15 日（水）19：00～20：25

◆会場 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 4 階大会議室

◆出席委員

山本 誠委員、酒徳 雅明委員、福村 伝史委員、西 勝美委員、木村 成吾委員、
齋藤 平委員、三輪 勝也委員、吉川 真介委員、長谷川 敦子委員、秋山 則子委員

◆欠席委員

中村 基記委員、前澤 謙行委員、松山 泰久委員、美濃 松謙委員、山川 一子委員

◆出席職員

情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局兼企画調整課長、同課長補佐、同主査、
情報戦略局参事兼情報調査室長】

環境生活部【市民交流課長、同課副参事】

教育委員会【学校教育課長、教育研究所情報教育係長】

健康福祉部【健康課長、こども課長、地域包括ケア推進課長】

産業観光部【商工労政課長、同課副参事、農林水産課水産課長、観光誘客課長、
観光振興課長】

都市整備部【都市整備部参事兼建築住宅課長、都市計画課長、交通政策課長】

◆内容

(1)伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理

資料説明 「伊勢市まち・ひと・しごと総合戦略進行管理表」

「伊勢市の人口動向等について」

【意見交換】

- ・進行管理表の14ページ指標「中心市街地商店街の空き店舗率」に係る空き店舗の利用について、「店舗以外」の利用は可能か。
⇒店舗以外としては、シルバー人材センターが出張所として利用している事例がある。
- ・人口動向について、3年間下がっていた合計特殊出生率がH28年に1.51まで上昇している理由は何か
⇒全国的に上昇しており分析は難しいところであるが、伊勢市の基本目標③「子育てしやすいまちだ」の値が上昇していることから施策が一定程度機能していると思われる。

- ・伊勢市人口ビジョンでは、2060年に社人研推計で人口約6万6,000人になるところ、9万人にするという高い目標を掲げている。現状では何か大きな対策を打たないと難かしいと感じる。難しいかもしれないが、この目標通り進行しているか分析できるようにしておいてほしい。
- ・進行管理表の施策9ページ「シティープロモーションの推移」について、指標である「魅力度」はどのような内容で順位が決定されているのか。評価の項目が分かれば分析可能と思われる。
 - ⇒民間のシンクタンクによる結果を記載しているもので、その評価基準については具体的には知り得ないところである。伊勢市においては遷宮からサミットあたりまで順位が上がっていたが、今年度は他市が上がっていることもあり相対的に順位が下がっている。その内容については可能な範囲で確認したい。
- ・9ページ施策「移住者への支援」について、三大都市圏からの転入者が多くいるところ移住者への空き家改修助成制度活用件数は2件となっている。PRはどのようにしているのか。
 - ⇒東京、大阪、名古屋の移住情報施設でチラシ等の配布によるPRをしているがPR不足とは感じている。今年9月から空き家バンクが稼働し、市のホームページ、また国交省の関係にも空き家バンクを掲載して全国的にもPRしている。
- ・14ページ施策「中心市街地の活性化」の主な取組内容「商店街等振興対策事業」の事業概要中「関係団体と連携」とあるが、これはどのような団体か。高校生が空き店舗を必要としている人と空き店舗を利用して欲しい人とをマッチングをさせるアプリを開発し、それを活用するというような取組はあるか。
 - ⇒関係団体は、いせまちづくり株式会社、商店街、商店街連合会また伊勢商工会議所である。この事業についてはアプリの開発は視野にいれていないところである。
- ・移住者の空き家改修助成制度は転入後も活用できるのか。
 - ⇒この制度について県外に6ヶ月以上在住しており、市に5年以上在住してもらう方が対象となっている。期限はあるが転入後でも制度利用可能である。
 - ⇒例えば、転入するときは戸籍住民課に行くので、そこに当該制度が分かる資料等があればよいと思うので検討されたい。
- ・雇用関係はかなり改善しており有効求人倍率も上昇している。ハローワークは求職者支援をしているイメージが強いが、雇用関係が改善しているなか、求人者支援の取組も実施してきている。様々な目標達成にあたりハローワークで支援できることがあれば協力していきたい。

・転入者の年代別割合はどうか

⇒参考であるが、国、三重県、伊勢市の総人口における年齢階級ごとの人口割合によると、伊勢市（H27年国勢調査結果）では男女とも75歳以上の高齢層において、国、県よりも割合は高い。25歳～44歳の若年層及び中間年齢層については国や県よりも割合は低い。このことから伊勢市は国や県よりも高齢化が進んでいるという状況である。

また、人口ビジョン作成時においては、県外の移動は10代後半から20台前半の転出超過が多く、大学等への進学その他就職等により若い世代が流出していると思われる。県内への移動については社会増減がほぼ均衡しているものの、市町村別の移動を加味すると将来的には転入が減少し転出超過になるのではと見ている。

・転入者を増やすためにどのような人を伊勢市は受け入れるのか、例えば定年退職者が住みやすいまちとするのか、都会から戻る若い層を受け入れるのか。最近の大手会社はサテライトオフィスとかインターネットを介して仕事をするような状況であるので、そういった人の受け入れ体制についても県を含めて整えることをしていかないと難しいと思う。また、出生率を増やすには働き方改革も必要であり、総合的にどのようなまちにしていくか、どのような人を受け入れるのかという戦略を立てるのが良いと考える。

・KPIの約7割は目標達成が可能であるため全体的には良好であると言える。個別的にみると、9ページ施策「シティープロモーションの推進」については達成度Cになると感じる。また、10ページ施策については、今後は鈴鹿医療科学大学も連携の視野にいれると良い取組ができると感じる。12ページ施策「学習環境の整備・充実」については達成可能であると思うがその主な要因は子どもの減少であると思われる。14ページ施策「交通ネットワークの形成」の達成度はCであるが、必要とする地域ほど人口減少が激しいことから努力しても増えないため致し方ないと感じる。18ページ施策「定住自立圏構想の推進」の達成度Cについては、人口が減っても住みやすい地域をつくるためにも3市5町の広域連携で効率的な行政の取組を継続してチャレンジして欲しい。

・今回、皇學館大學が駅伝に出場し非常インパクトがあった。これにより今後、県外から入学者が増えるとも思われる。こういった一つのきっかけを広めていければとよいと感じる。

・出会支援センターのデータを教えていただきたい。

⇒センター主催のイベントについては現在まで3回実施しており、それぞれ10組程度カップルが成立している。そこからさらに1組ずつ、合計3組ご成婚の報告をいただいている。

以上